

兵高教組 調査情報 2012年9月11日 10号

兵庫県高等学校教職員組合調査部

TEL : 078-341-6745
 FAX : 078-351-3185
 URL : <http://www.hyogo-kokyoso.com>
 mail : honbu@hyogo-kokyoso.com

学区拡大 問題

密室協議は直ちに中止し

県民の意見を聞く場を設けよ！

神戸新聞（9月5日付）は、県教委が但馬地域において「但馬地域連絡協議会」を設置し、学区拡大に伴う入試制度の変更について非公開で議論していることを報道しました。このような密室協議は直ちに中止すべきです。

県教委は同協議会で、市町教委や保護者に対し、連携校以外の生徒を受け入れる割合を現在の北但6%・南但5%から、最大25%に拡大する改変案を示しました。現行5%～6%の枠を25%にも引き上げることは但馬の連携方式の事実上の廃止を意味します。同連絡会は、各市町の教育長、中学・高校校長、保護者ら25人で構成されていますが、県教委提案は同意が得られず紛糾したことは言うまでもありません。

学区拡大は、受験生や保護者だけでなく地域の将来にも重大な影響を与えます。このような重要な問題を地域住民や生徒・保護者に全く知らせず密室協議で進めようとする県教委の姿勢は非常識きわまりないものです。そもそも県教

委が示した学区拡大の「基本方針」（本年1月6日）そのものが、今後の制度設計は「市町組合教育委員会や中・高校長会などの関係機関と十分協議の上」行うとし、地域住民や保護者を排除する反県民的姿勢をあらわにしたものでした。しかし、「基本方針」ですら非公開、すなわち今後は密室で進めていくとはいえなかったのです。

高教組は、学区拡大にかかわる諸会議をすべて公開すること、県教委が自ら認めた「通学費等の通学支援のあり方」「その他希望」「第一志望加算点」などの課題をどのように解決すべきか幅広く県民から意見を聞く場を設定することを求め、要求書を提出しました。

兵庫県教育委員会 教育長 大西 孝 様

2012年9月7日

高校通学区拡大問題に関する要求書

日頃は、兵庫の教育の発展のためにご尽力いただいていることに敬意を表します。

さて、貴委員会は、私たちの反対の声や県下自治体からの多くの反対ないし慎重な対応をとる意見提出を無視し、今年の1月6日、「兵庫県高等学校全日制普通科（学年制）の新通学区に係る基本方針」を発表しました。そのなかで、「実施に向けた諸準備」として、「地域の実情に十分配慮しながら、実施に向け必要となる制度設計等については、市

町組合教育委員会や中・高校長会などの関係機関と十分に協議の上、平成24年度内を目途に決定し、公表する」とされています。また「受験生・保護者の学区再編に対する不安感を解消」する必要がある旨も記載されています。具体的には、複数志願選抜制度の「その他校希望」や「第1志望加算点」の見直し、「但馬地域の選抜制度の工夫・改善」「自由学区見直しに伴う出願方法」などの検討が記載されています。また、「中学校の進路指導に係る環境整備」では、「進路指導協議会（仮称）（市町間の進路指導の情報交換の場の設定）」や「中学校高等学校連絡会議（中学校進路担当者と高等学校担当者の連絡会議）」等の設置・開催が記載されています。また、「市町組合教育委員会との連携」では「全県地区代表者会、新通学区教育長会議等の開催」も指摘されています。

そのような会議をするにあたり大切なことは、当事者で主権者である保護者・県民に対して開かれたオープンな場を設定し、県民的な合意を得ていくことです。教育委員会やその関係者だけで検討し、結論を保護者・県民に押しつけることがあってはなりません。しかし、新聞報道によれば、秘密裏にそのような会議が行われているようで看過できません。つきましては、下記の要求をしますので誠意ある回答と対応をお願いします。

記

1. 学区拡大問題に関するすべての会議を公開すること。
2. 学区拡大問題に関する保護者・県民の意見を聞く場を現行学区ごとにもつこと。
3. 当面、貴委員会も検討課題とされた「その他校希望」、「第1志望加算点」、「通学費」等について、新しい5つの学区ごとに自治体関係者や保護者に集まってもらい、意見を聞く場をもつこと。

但馬

村岡高・香住高普通科 学級数維持を求め請願

南但学区の来年3月中学卒業生が約50人減少することで、学級数が減らされる恐れがあるため、香美町小代・村岡区の小中高PTA会長・村岡高校同窓会長名で、学級定員の弾力的な運用で村岡高・香住高普通科の学級数を維持すること等を内容とした意見書を県に提出することを求める請願が香美町議会に出されることになりました。

南但学区では来年3月中卒者が54人減少します。機械的に計算すれば、卒業者が減少する中学が連携校となる高校で1クラス減となる可能性があります。中卒者が減少する地域を考えると、村岡高校の学級定員が減らされる恐れがあります。村岡高、香住高普通科は1学年2クラスですが、1クラスにすることは、学校の教育活動や、学校が地域の活性化に果たしている役割に重大な影響を及ぼします。

学級定員の弾力的運用を！

京都府では30人学級実施

機械的な定員配当をせず、特に過疎地においては地域性を考慮して学級定員を弾力的に運用すべきです。京都府では、来年、北部の府立高校の学級定員を30人として入試を行う予定です。兵庫県においても、全ての地域の学校を大切に作る施策をとるべきです。